

# 日白山山行記録



目的地	日白山	期 日	平成23年3月26日(土) / 4月4日 (月)
山行人	3/26 : 笠原・五十嵐・萱場・りょう子・よし子・ヒロちゃん / 4/4 : 笠原・高橋夫妻・伴場・清水・広井・土田		

【3月26日】朝 7:30 に湯沢 IC 付近のコンビニで合流し、二居・見晴屋前へ。林道入口は雪が多く駐車出来ない。除雪作業中の見晴屋主人にお願いして車の鍵を付けたまま出発。やや吹雪模様だ。峠までとすることにし、新雪をラッセルで歩き出す。俺とヒロはスノーシュー、他はスキー登高。良子が遅れ気味となる。峠の東屋は屋根下まで雪で埋もれていた。萱場がスキーで少し先まで上がって行き、すぐに戻って来た。スコップでテーブルまで掘起こし、五十嵐のツェルトをかぶり、ランチタイム。外は寒い、中はガスストーブを炊けば暖かい。下りは林道をショートカットしながら下る。スキー隊はパウダースノーを楽しんでいる。11 時過ぎには車に戻り、中里のヒロタンリゾートマンションへ。奥さんのあけみさんも来ていて、早速、温泉&宴会スタート。キャベツとウインナのケチャップ炒め他を食べて貰う。後は酌酩。翌日は昼過ぎまでゴロゴロ。

地名	時刻	記 事
【4月4日】 大 沢 山 荘	7:45 発	前日、与板ハイキングコースの整備作業後、長岡北バス停で高橋夫妻に拾って貰い、大沢山荘へ。7人で前夜祭。朝、外は気温が低く、風は穏やかだがチラチラと雪が舞う。ここから歩き出し。
林 道 入 口	7:52	除雪され、少し広くなっていた。すぐに雪の壁を上る。先週のスノーシューの後が残っている。
二 居 峠 東 屋	8:20	先週積んだ雪のブロックがやせていた。尾根取付きにも萱場のスキートレースが分かった。小雪が舞っているが、R17と宿場の湯を見下ろす。
送 電 線 鉄 塔 下	8:45	最後を歩いているが、皆休まずにどんどん登って行く。
窪 地 で 休 む	9:45	積雪が多く、今までに比べブッシュも少なく登り易い。ブナ林を抜け出し、雪の窪地で休む。一瞬青空がのぞいたが、曇りのままだ。
東 谷 山	10:00	薄日が差しそうな気配があったが、ガスが流れて展望は利かない。日白山の山容が分かるが、ピークにはガスが流れて見えない。下る予定の尾根は目で追える。その下に砂防堰も見えている。
急 降 下 へ	10:05	雪の表面がクラストしていてやや固い。慎重に蹴り込み下る。次いで、所々吹き溜まりもあるが、足元は積雪で滑る心配は無い。最低鞍部まで標高差 80m。
日 白 山	11:00~11:10	広井と俺とで交互に先頭を務め山頂着。残念ながら展望は無かった。(写真左) やや風を受けて寒い。下り始めてすぐにカンジキを履く。
雪 穴	11:20~12:45	タカマガギ方向に進み、樹林の下に高橋のシャベルで雪穴を掘り下げる。風を遮れば寒さはしのげる。ガスボンベの残量は半分程度だが火力が弱い。焼きラーメンを作るが時間が掛かった。低温の時は満タンでなければならなかった。
斜 面 下 り へ		予定では H1581 まで進み、その尾根を下るところだったが、広井の提案によりトラバースする。右の尾根を意識しながら各々が好きなルートで下る。
カンジキ紐切れ	1:15	斜下降の途中で右のカンジキのベルトが切れた。片足だけ壺足歩行となる。
大 樹 下 で 休 む	1:35	日差しが出てきた。かよ子さんが少し上で立ち止まってスケッチをしている。
沢 中 へ 降 り る	2:00	急降下で沢の中へ。シリセードで滑る降りる者もいる。(写真右)
砂 防 堰	2:12	雪に段差が出来ている。左を進んで振り返れば堰が僅か露出している。
右 岸 へ	2:25	進むうちに林道となる。橋を渡って休む。晴れとなり、振り返れば東谷山が映えている。もう少し天候の回復が早ければと悔やまれる。片方のカンジキを脱ぐ。
三 俣	3:45 着	壺足が時々ぬかって少し苦勞した。橋以後の雪の林道歩きが長かった。

26日は三俣に下るルートがスキーに恰好だということでヒロタンに声をかけたが、悪天候で先へ進めなかった。4日の予報はまずまずだったが、やはり山の上は下界とは違う。それでも寒気はあるが、雪の状態が良く比較的楽に登高出来た。午後になって好天に向かい、山が良く見えてきたが、この山域では、越後も上州も晴れの予報でないと展望は望めないと思った。下山ルートは広井の申し出を受け入れて斜面下りをしたが、GPSのトラックデータを見てみれば、それほど近道をしてはいなかった。尾根に乗って下るほうが楽だったと思われる。